
鑼物語

古鷺川 雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

籬物語

【Nコード】

N5526BA

【作者名】

古鷲川 雪

【あらすじ】

”君はこれから首をつられ、水攻めに遇い、火あぶりにされるだろう”

平々凡々な少年・野比のび太。

彼の引き出しから現れた”未来を予知する青猫”とは……！？

平々凡々は日常は斬新奇抜な非日常へと変化する。

これぞ現代の

怪異！怪異！怪異！

絶好のきかいは掴み、奪うもの。

第鈍話 のびたツールその一（前書き）

はじめまして。

古鷺川というものです。

気軽に読んで下さると幸いです。

ですが、

この物語内での登場人物の性格、ストーリーなどおそろく原型を留めておりませんのでご了承を……。

第鈍話 のびたツールその一

僕は逃げ出していた。

いや、実際逃げ出してはいないだろう。逃げ出せもせず、ただただ殻に閉じこもっていただけだ。

自分の非才さを嘆き、非運さを呪い、非力さを認められなくて現実から目を逸らしていた。

だから僕は願った、何度も何度も繰り返し願った。多才さを喜び、幸運さを祝い、強力さを認められたいと。

それが、結果としてあんなモノに頼ってしまうとはその時、微塵も思っていなかったし、例え結果を知っていたとしても弱い僕は頼り、縋っていたことだろう。

今思うと、何もやらなかった、何もしようともしなかった怠惰な僕の過失なのだけれど、あの時は自分だけが恵まれていないと思っていたのだから全くはずかしいかぎりだ。

この話は僕が弱く、鈍いがため回避できなかった物語だ。

強く、聡い人には聞くに堪えない話だろうが、僕の独り言だと思っ
て軽く聞き流してくれ。

第鈍話 のびたツールその一（後書き）

ドラえもん及び化物語のファンの皆様、このような駄文に使ってしまい申し訳ありませんでした。

ちなみに、この物語に化物語のメンバーは出てきません。題名などだけをお借りしています。

読んで下さった方がとつごぞいます。

これからも、適当に読んで下さると幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5526ba/>

籬物語

2012年1月15日01時48分発行